

社会

◆大設問ごとの内容と結果◆

大設問	主な出題内容	設問数	配点	受検者平均点	受検者得点率(%)
問 1	世界の地理	5	14	7.93	56.61
問 2	日本の地理	5	15	9.41	62.76
問 3	江戸時代までの歴史	5	15	7.93	52.84
問 4	明治時代以降の歴史	5	14	7.26	51.84
問 5	経済	5	15	8.62	57.48
問 6	政治、現代社会、国際社会	5	14	7.99	57.09
問 7	地理・歴史・公民の融合	4	13	8.27	63.62
		34	100	57.41	—

(「令和7年度神奈川県公立高等学校入学者選抜学力検査の結果」より作成)

(参考：合格者平均点57.9)

◆概要◆

昨年度と同じく大設問7題の構成です。問題の総ページ数は14ページ、小設問数(採点単位)は34題で、いずれも昨年と同じでした。各分野の配点(分野融合は配点を折半/[]内は昨年度)は、地理分野が30.5点[31.5点]、歴史分野が35.5点[33点]、公民分野が34点[35.5点]でした。中学校3年間で各分野に配当された単位数と比較すると、公民分野の配点がやや多くなっており、地理分野の配点が少なくなっていました。

2022年度から、すべての出題がマークシート解答形式で記述解答形式がなくなっています。また、2021年に平均点が70点を超えましたが、その後は平均点が少しずつ下がり、50点台半ばで推移しています。

例年どおり、単純に用語(知識)を問う出題は少なく、単なる暗記でなく正しい理解を前提としていることや、複数の資料やメモ等を読解して情報を処理し、それらを活用して解答することを特徴としています。

◆大設問ごとの出題傾向と難度◆

問1：例年どおり略地図をリードとする形式でした。(エ)使用言語が同じである国とその理由を問う問題で、地理的な知識だけでなく、植民地についての歴史的な知識も必要でした。(オ)時差から略地図中の2つの都市を特定する出題で、時差と経度の関係について正しい理解が必要でした。やや難しい問題でした。

問2：例年どおり資料や地形図をリードとする形式でした。資料を丁寧に読む必要がありましたが、必要な知識は基本的で、正答率の高い出題が多かったです。(ア)昨年と同様に3つの都市の雨温図を読み取る出題でしたが、太平洋岸、中央高地、瀬戸内の各気候の特徴を正確に見分ける知識が必要でした。

問3：2023年度から、資料を含むレポートをリードとする形式に変わりました。比較的オーソドックスな出題が多かったのですが、(エ)(オ)はいずれも江戸時代の対外的な交流をテーマとした出題で、どちらも正答率は30%台でした。正確な知識と丁寧な資料の読み取りが必要でした。

問4：昨年までは略年表がリードになっていましたが、問3と同様に資料を含むレポートがリードになりました。レポートのテーマは「近現代の日本における歌や音楽の歴史」でしたが、出題の内容は一般的なものでした。(イ)幕末に「ええじゃないか」が起こった背景を問う出題で、正しい知識を必要としました。(エ)自由民権に関する出題で、「自由党は、憲政会と交互に政権を担当した。」の正誤を判断する正確な知識を必要としました。正答率は33.6%でした。

問5：「貨幣」をテーマとするレポートをリードに、経済分野から出題されました。(イ)金額や物価について述べた3つの文の正誤を判断する出題でしたが、3つすべてが誤りという点が難しかったようです。

問6：主要国首脳会議をテーマに、おもに国際分野と政治分野から出題されました。(イ)議員内閣制について述べた3つの文の正誤を判断する出題で、細部の正確な知識を必要としました。

問7：「西アジア」をテーマに、地理・歴史・公民の各分野から出題されました。(エ)4つの資料を読み取って、5つの文の中から2つの正しい文を選ぶ出題でした。資料には記載のない知識を必要としましたが、比較的易しく、資料を丁寧に読み取っていくことで十分正解できる問題でした。